

ICT 通信

第21号



青梅市立第六小学校研究部

発行者 研究部 竹原弘樹

発行日 令和3年9月21日(火)

町田の事案を受けて

13日の新聞・テレビで報じられた、町田市の公立小学校で起きた「いじめ」事案では、一人一台貸与されたタブレット端末も使われたことが分かっています。

特に問題があるのは、「全ての端末のパスワードが同じだった。」という点です。

女兒が通った小学校では、児童に貸与したタブレット端末を起動する際のパスワードを「123456789」に統一し、IDは児童の所属学級と出席番号を組み合わせたものにしていたという。

両親が同級生らに聞き取ったところ、端末上での会話について「自分が書いていないのに勝手に書き込まれた」「書いていた内容を消された」など「なりすまし」の被害を訴える複数の証言があったという。

両親は「他人のIDを容易に推測できたため、なりすましが横行していたのではないか。学校の管理がずさんだった」と指摘する。

(2021年9月15日東京新聞 <https://www.tokyo-np.co.jp/article/130896>)

ここで改めて、六小のタブレット端末の安全性について共有しておきます。

- ①ログインのIDは、市から指定されたものです。これは、ランダム性のあるものなので、他人のIDを知ることは容易ではありません。
- ②パスワードについては、児童が紛失・失念した場合を想定し、教員が一人一人設定しています。全員が違う番号となっています。

以上のように六小では、組・出席番号・同じパスワードといった単純な組み合わせではなく、「誰にでも簡単になりすまることができる」状況にはありません。

しかし、ID・パスワードの管理に注意しなければならないことには変わりありません。タブレット端末を活用した指導する際に教員は、以下の点に気を付けてください。

- ID・パスワードが他の子供に見えるような場所に表示・放置されていませんか。
- IDやパスワードの入力規則等について、学校の外部に漏れないように注意していますか。
- 他人にパスワードを教えるはいけないという指導をしていますか。
- 他人になりすましてアカウントを悪用してはいけないという指導をしていますか。

インターネットの世界も、現実世界と同じようにルールやマナーが必要です。まさに「情報モラル」です。子供たちにとってどんどん身近になってきているICTだからこそ、小学校のうちから正しく使えるように指導する必要があります。今回の事案を教訓として、教員側も意識をアップデートできればと思います。